令和５年度　研究の概要

１　研究主題

伝え合う活動を通して考えを深める子どもの育成

２　主題設定の理由

（１）学校の教育目標と今日的課題から

本校は「未来をみつめ、支え合い磨き合い、共に高まる美里っ子～かしこく　やさしく　たくましく～」を学校教育目標に掲げ、「かしこく…夢に向かって挑戦し、進んで学ぶ子ども（わくわく）」「やさしく…明るく、思いやりのある子ども（にこにこ）」「たくましく…元気で、ねばり強く努力する子ども（のびのび）」を目指す子どもの姿とし、「生涯にわたって自ら学び、社会の変化に主体的に対応できる、心豊かでたくましい人間の育成」を目指している。また、「確かな学力の育成」を重点項目の一つとして自ら学ぶ意欲と確かな学力の定着を図る授業の工夫・改善を実践することを掲げている。

現行の学習指導要領では、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる児童に、生きる力を育むことを目指すために育成する資質・能力として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの柱が示され、発達の段階に応じて、教科等横断的・総合的にこれら３つをバランスよく育むことや「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

更に、中央教育審議会「令和３年答申」では、現代的な課題を踏まえ、「学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』と、子どもたちの多様な個性を最大限育成する『協働的な学び』の一体的な充実が図られること」が求められている。

また、秋田県においては「地域に根ざしたキャリア教育の充実」と「“『問い』を発する子ども”の育成」への取組の充実を最重点の教育課題としており、「秋田県の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実や「問い」を発するための基盤となる言語活動の充実が求められている。

（２）昨年度までの研究と児童の実態から

本校では、令和２年度から算数を窓口として、子どもたちの考えや発言を引き出し、伝え合う活動を通して考えを広げ合ったり深め合ったりすることで教科のねらいを達成する授業改善を行ってきた。伝え合う活動に取り組んできたものの、説明をしても一部の子どもが分からないまま学習が進んでしまう、考えを深め合うまで至らないということが昨年度の課題であった。そこで今年度は伝え合う活動について更に重点的に取り組みたいと考える。

（３）今年度の取組

「伝え合う活動を通して考えを深める」ことによって、子どもは自然に「主体的に学び続ける」ようになる。考えを深め合うという点を明確に重点とするために、研究テーマは「伝え合う活動を通して考えを深める子どもの育成」とし、「伝え合う活動」から「考えを深める」ためにどうすればよいのか、研究していくこととする。

子どもたちが伝え合いを通して考えを深め問題解決に向かうためには「何が分からないのか」「どの程度分かっているのか」「何につまずいているのか」などについて教師が各教科の教材の本質に沿って理解していることが大切である。

また、子ども一人一人のできていることや困っていることなどの学習状況等、様々な要素も把握しておく必要もある。その中で子どもが自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成するために、教師が方法や時間の設定、細かな支援の提供・設定を行う個別最適な学びの場が必要である。子どもがじっくり自力解決に取り組んだ「個の学び」が伝え合う活動の充実につながっていく。

伝え合う活動の充実は、考えを広がり深めることに結び付くと考える。自らの考えを明らかにしたり説明をしたりする「伝え合う活動」の過程において、相手の考えに寄り添ってどうすればよいのかを具体的に説明することができるようになることを目指し授業改善に取り組みたい。また、説明を聞く側の子どもたちには、協働することで自らの考えを再考したり友達の考えを取り入れアウトプットしたりするという目的意識を明らかにして活動させたい。

昨年度、各学級に電子黒板が導入され、ＩＣＴを生かした授業展開に取り組んできた。導入や協働的な学びの場面においてのＩＣＴの活用だけではなく、子ども一人一人に応じた学習課題に取り組むような学習の個性化にも取り組んでいきたい。

３　目指す子どもの姿

○（進んで学び）根拠を明らかにして分かりやすく話す子ども
○考えを吟味しながら他者と関わり、広げたり深めたりする子ども

４　研究の仮説

【仮説１】　子どもの学習状況を見取り個に応じた方法や支援を行い一人一人の考えを生かして学び合いを展開することで、伝え合う活動の充実を図ることができるのではないか。

【仮説２】　相手意識・目的意識を明らかにした充実した伝え合う活動を設定することで、協働的な学びが展開され考えを広げたり深めたりすることができるのではないか。

５　今年度の研究の重点と共通実践事項

授業改善

（１）具体的な日常の事象を取り上げるなど、子どもが「知りたい・学びたい」と思うような導入の設定

（２）話合い・伝え合いの場面の充実

・相手意識・目的意識を明確にした話合い・伝え合いの場面の設定

・学習状況を見取り、個に応じた方法や支援を行い一人一人の考えを生かして学び合いを展開することで、以下のような子どもの姿が見られる授業を目指す。

ア．な　なぜ？と考え、図、数、式、表、グラフ等と関連付けてみる。（疑問をもつ）
イ．ま　前の学習を生かして考える。（既習を生かす）
ウ．は　始めに、次に、だから～と順番に考える。（順番に筋道を立てて考える）
エ．げ　原因（そう考えたわけ）を話す。（根拠）
オ．き　きまり（同じ）を見付ける。（比較・統合）
カ．た　他の場合も考える。（比較・一般化）
キ．か　簡単な数（形）にしてみて考える。（単純化）
ク．？　？本当に正しいか考える。（検討する）

・「話し方・聞き方のステップカード」「美里っこ話す・聞く」の活用

（３）働かせた数学的な見方・考え方（教科によっては　教科の特質）を教師が価値付け、考えが深まったことを自覚したり、個に応じた変容や成長を実感したりできるような振り返りの工夫

・「学習ふりかえるくん」の活用

（４）ICT機器の効果的な活用

・協働的学習場面でのチームスによる活用

・導入、提示、考えの集約、説明、交流、図示、振り返り等

6　授業改善における具体的な手立て（例）

	授業の流れと目指す子どもの姿	共通実践事項と具体的な手立て（例）
つかむ・見通す	1 導入 ・学ぶ意欲が高まるような導入の工夫 2 課題の設定 ・なぜ？と考え、図、数、式、表、グラフ等と関連付けてみる。（疑問をもつ）	□日常の事象と結び付けたり、「知りたい」「学びたい」「なぜだろう」と思うような導入の工夫 □子どもの声を生かした課題設定 ・知りたいことは何か明確にする。 ・前時の学習と何が違うのか考えさせる。 ・数字の規則性や図形の規則性に気付かせる。 等
考える	3 自力解決 ・前の学習を生かして考える。(既習を生かす) ・始めに、次に、だから～と順番に考える。（順番に筋道を立てて考える） ・簡単な数(形)にしてみて考える。（単純化） ・図、数、式、表、グラフに表したり読んだりする。　等	□見通しをもって問題を解決するための手立て 個々の考えをもたせるための工夫 ・図・表をかく・数直線・位取り表、等 （何を用いて自力解決するのか、つかませる） □机間指導しながら個別に声をかける。 ・何に着目するとよいのか問いかける。 ・つまずいているところはどこか問いかける。 ・取り上げる考えを吟味する。
伝え合う・広げる	4 伝え合い ・伝え合う目的の明確化 ・原因（そう考えたわけ）を話す。（根拠） ・相手に分かってもらうために、何でどのように表現したらよいのか考える。 （図・式・表・グラフ等・ICT機器等） ・自分の考えと比較検討し話し合ったり他の考えを取り入れたりする。 ・きまり（同じ）を見付ける。（比較・統合） ・他の場合も考える。（比較・一般化） 等	□相手意識・目的意識を明確にした話合い・伝え合いの場面の設定 ・根拠を明らかにするように意識付ける。 本時で扱う記号や伝え合いで使わせたい数学的な表現の明確化 ・考えを言語化する活動をする。 ・類似点や相違点等の発見を促す発問 ・分かったことは何か、分からなかったことは何かを明確にしながら話し合わせる。 ・フラッシュカードや板書、考えが深まっていくような取り上げ方の工夫 ・友達の考えた式や図を説明する場の設定 ・友達の考えた方法でもう一度考えてみる（解いてみる）場の設定 ・「話し方・聞き方のステップカード」「美里っこ話す・聞く」の活用 ・「は・か・せ」の活用
まとめる	5 まとめ 6 終末 「学習ふりかえるくん」 み　見通しもてた　こうしたら さ　算数　すっきり　よく分かる と　友達の　こんな考え　取り入れたい っ こ　これから　知りたい　調べたい い　いつの間に　自分の考え　変わってた べ　便利だな　このやり方で　ばっちりだ	□課題とまとめの整合性 ・子どもの言葉（考え）を生かしたまとめ ・評価問題 □振り返り ・「分かった」「できた」「考えが深まった」という自覚がもてる、個の学習過程に応じた振り返りの充実 ・本時でどのような数学的な見方や考え方が身に付いたのか、教師が価値付けた振り返りの視点 （「学習ふりかえるくん」の活用）　等

授業の視点（授業者として協議してほしい事項・共通実践事項の中から）　・～は適切であったか。

7　研究全体構想図

【研究主題】
伝え合う活動を通して考えを深める子どもの育成

【目指す子どもの姿】
〇進んで学び）根拠を明らかにして分かりやすく話す子ども
〇考えを吟味しながら他者と関わり、広げたり深めたりする子ども

研究の仮説

【仮説１】　子どもの学習状況を見取り個に応じた方法や支援を行い一人一人の考えを生かして学び合いを展開することで、伝え合う活動の充実を図ることができるのではないか。

【仮説２】　相手意識・目的意識を明らかにした充実した伝え合う活動を設定することで、協働的な学びが展開され考えを広げたり深めたりすることができるのではないか。

◇研究の重点◇

〇授業改善

（１）具体的な日常の事象を取り上げるなど、子どもが「知りたい・学びたい」と思うような導入の設定

（２）話合い・伝え合いの場面の充実
- 相手意識・目的意識を明確にした話合い・伝え合いの場面の設定
- 学習状況を見取り、個に応じた方法や支援を行い一人一人の考えを生かして学び合いを展開する。
- 「話し方・聞き方のステップカード」「美里っこ話す・聞く」の活用

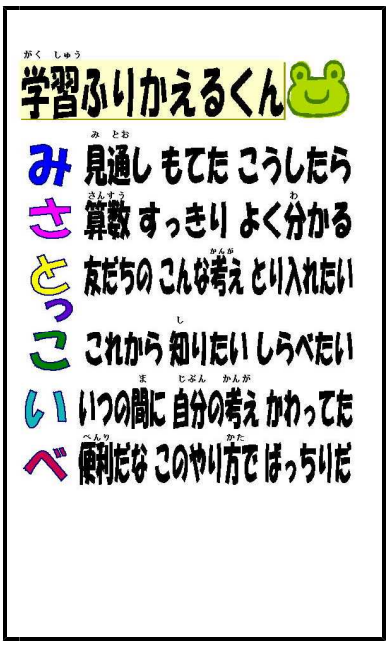
（３）働かせた数学的な見方・考え方（教科によっては　教科の特質）を教師が価値付け、考えが深まったことを自覚したり、個に応じた変容や成長を実感したりできるような振り返りの工夫
- 「学習ふりかえるくん」の活用

（４）ICT機器の効果的な活用
- 協働的学習場面でのチームスによる活用
- 導入、提示、考えの集約、説明、交流、図示、振り返り等

８　資料

（１）学習ふりかえるくん

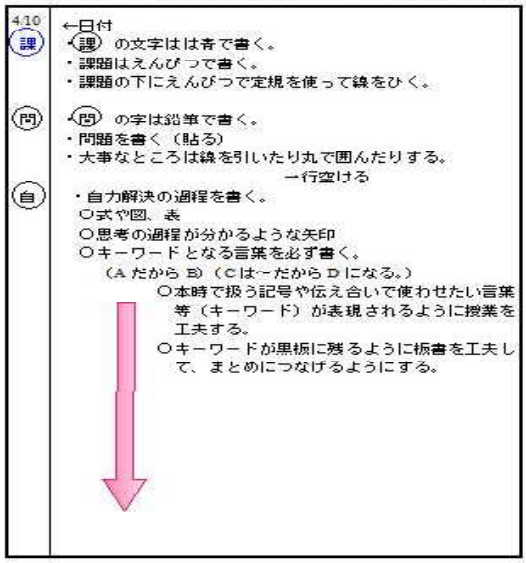
み	見通しもてた　こうしたら	ア．	見通しのもち方や解決過程について
さ	算数　すっきり　よく分かる	オ．	算数的なよさについて
と っ	友達の　こんな考え　取り入れたい	ウ．	友達（他者）の考えのよさについて
こ	これから　知りたい　調べたい	カ．	これらの学びとのつながりについて
い	いつの間に　自分の考え　変わってた	エ．	自分の考えや気持ちの変容について
べ	便利だな　このやり方で　ばっちりだ など	イ．	解決方法のよさ（どんなところが便利か）について

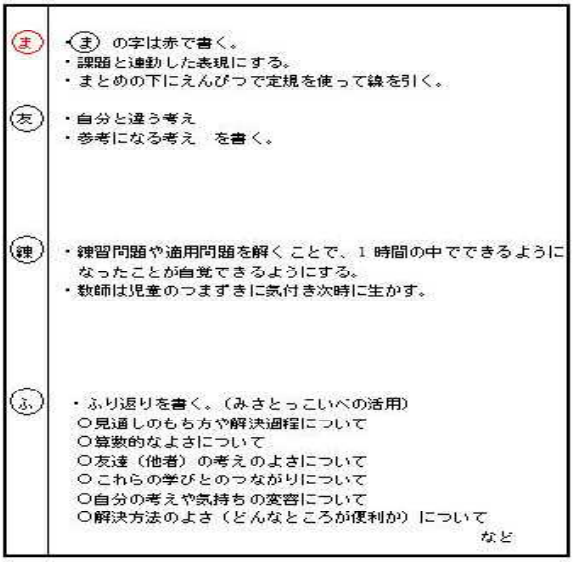
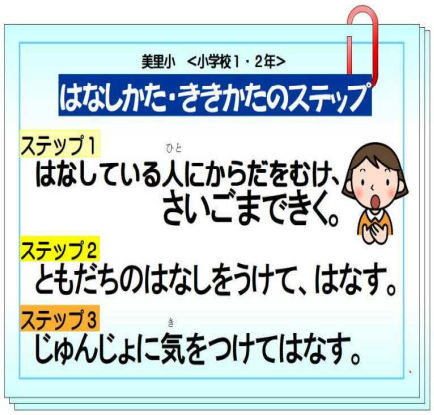
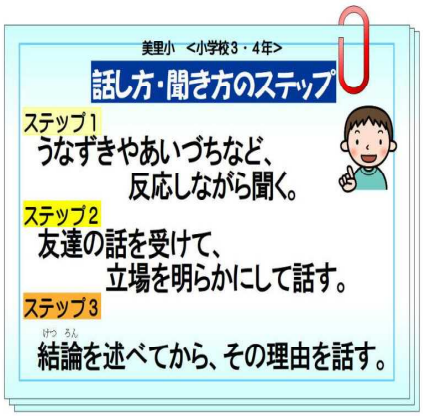
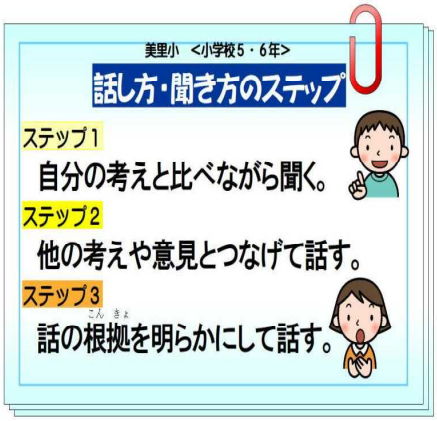


（２）算数のよさの掲示

（３）算数のノート指導例

※算数ノートの指導について
- １時間見開きで使う。
- ノートの上部を見ると、その時間に学んだことが分かるようにする。
- 下学年はノートの使い方をおぼえる。上学年は自分なりに工夫するようにする。





（４）話し方・聞き方のステップ